

修了生
からの
お便り

桐生 貴博
(きりゅう たかひろ)

新潟県出身。福島大学教育学部を卒業後、平成20年度上越教育大学大学院社会系コース修了。修了後は千葉県の公立小学校に赴任し、教育活動に励んでいる。



教員になって思うこと

「現場は…」 「現場に戻ったら○○だなあ」 「うちの学校では…」 大学院在学中はこんな言葉がよく聞こえてきました。私が他大学卒業後に上越教育大学大学院への進学を決めた最大の理由は、現職の先生の人数の多さでした。実際に学校で働いていらっしやる先生と共に学べるなんてとても魅力的でした。期待に胸ふくらませ、入学したことを今でもよ

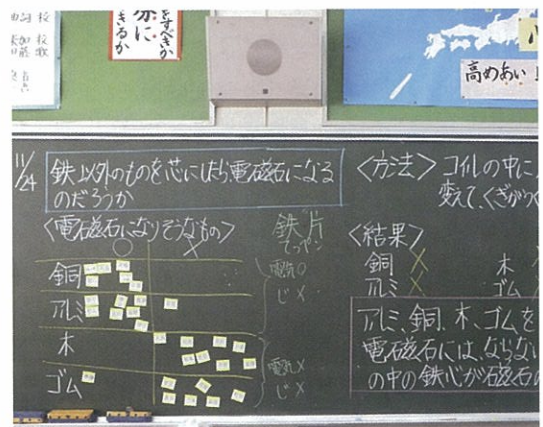


学校の田んぼでの代かき

く覚えています。

大学院では地理教育研究室に所属し、高校生が都道府県をどのようにイメージしているのかを研究していました。研究を進めるにあたり、過去の文献や資料を読みあさって研究の進め方や理論を頭に叩き込み、自分の研究したいことを明確にしていきました。偶然確率やイメージを可視化するための手法など、様々な場面で必要となる知識を習得することができました。研究を進めていくと理論が破綻したり、アンケートで思うような結果が得られなかったり、研究の計画通りに進まなかったりと挫折とまではいかないものの、たくさんつまずきました。そのつまずきから自分の未熟さや甘さを痛感していました。

現在は教職に就いて2年目となり、毎日元気な子どもたちと一緒に活動しています。今は新学習指導要領の移行期間ではありませんが、新学習指導要領に準拠した内容を指導しています。算数と理科を中心に大幅に学習内容が増えましたが、限られた時数の中できちんと身につくように指導することに苦労しています。1か月単位など、ある程度長期の学習指導計画を立てていますが、なかなか計画通りに進みません。計画も大事ですが、何より「分かりやすい授業」をすることが中心であることを体感しました。どういった具体



5年理科電磁石の単元の一コマ

物を使用したら伝わりやすいか、どんな学習問題だったら子どもたちはのってくるのか、どのように発問したら子どもたちが必死に考えるか等、教材の持つ特性を生かして「楽しく」学べるような教材研究を大切にしています。

共に学んだ仲間と現在でも連絡を取っています。特に在学時は現職の先生方にとっても懇意にしていたいて、今でも他愛もない話題で楽しんだり、時には酒の席を設けて近況報告をしたりしています。私のようなストレート生にとって現職の先生方はとても貴重な存在です。「教員を目指して大学院に行くなら上教大」と言われるような魅力ある大学であり続けてほしいと思います。上教大のネットワークが全国各地に広がれば、未来を拓く日本の教育につながると確信しています。